

「土砂災害から身を守るために」

群馬県 渋川市立渋川北中学校 1年 樋口 陽葵 ひぐち ひなた

近年、日本全国で多発している、がけ崩れや土石流、地すべりなどによる土砂災害は、すさまじい破壊力を持ち、一瞬にして多くの命や住宅などの財産をうばってしまいます。傾斜が急な山が多く、台風や大雨、地震などの多い日本では、その地形、気象等の条件によって、土砂災害が発生しやすい国土環境にあります。過去10年間の土砂災害発生件数をみると、平均して1年間におよそ1,000件もの土砂災害が発生しています。平成30年の土砂災害の発生件数は約3,400件で、一部の地域で集中して起きているのではなくほとんどの都道府県で土砂災害が発生しています。土砂災害による被害を防ぐため、国土交通省や地方自治体では、砂防えん堤などの施設整備や警戒避難体制の整備などの対策を実施していますが、これらと併せて私たち一人一人が土砂災害に対して日頃から意識し備えておくことが重要だと思います。

私たちが身を守るために知っておかなければならない土砂災害から身を守るために最低限知っておくことが3つあります。

1つ目は、自分の住んでいる地域が「土砂災害警戒区域」等になっているかを確認する事です。日頃から自分の家や学校がこれらの土砂災害の危険区域にあるかどうかを知り、避難の際にどこにどのようにして逃げるのか知っておくことが大事です。市町村が作成するハザードマップを利用すると避難場所、避難経路を確認できます。自分の住んでいる地域が警戒区域等でなかったとしても必ず安全とは限りません。「近くに傾斜が急な土地」や「小さな沢」がある場所は同じように注意しなくてはなりません。

2つ目は、雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意する事です。土砂災害警戒情報は、大雨により土砂災害発生の危険度が高まった時に、市町村長が避難勧告などを発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報なのです。これは、警戒レベル4相当の情報で災害の切迫度が高まっていることを示しているのです。土砂災害警戒情報は、気象庁、都道府県のホームページで確認できますが、ラジオやテレビの気象情報でも発表されます。都道府県や市町村によっては独自に携帯電話などに自動的に情報を送ってくれるサービスもあるようです。大雨によって停電になった時の事を考えると携帯ラジオを準備しておくといざという時の対策として良いと思います。

3つ目は、自分達の住んでいる地域に土砂災害情報が発表されたら、速やかに避難する事です。豪雨や長雨の時は市町村の防災無線や広報車による呼びかけ、緊急速報などに注意をし、家族・地域の方々に声をかけ、またお年寄りや障害を持った方など避難に時間のかかる方がいる場合は移動時間を考えてより速やかに行動に移す事が大切です。土砂災害の多くは木造の1階部分で被災しています。避難場所への移動が困難な場合は、近くに2階以上の建物があればそこへ避難する、家の中のより安全な場所へ移動する対策をとるのが良いと思います。

これからの対策は、日頃ニュースやネット等で情報が知られていると思います。これらの事をふまえて私ができる対策方法は、テレビのニュースや天気予報をこまめにチェックする事です。いつ災害が起こるか分からない今、災害に備えての情報収集、防災グッズの準備、日頃から災害に対して意識をする事だと思います。

対策をとったからといって必ずしも安心で安全だとは限りません。課題も多くあるはずですが、日中であれば避難しやすくて真夜中だったら、外は暗く足元もよく見えず避難は困難です。そして、安全な場所が必ず近くにあるとはいえません。近くに安全な場所があれば被害も少なく済みますが、なかったら被害は計り知れないものになるでしょう。こうした事が大きな課題の1つだと思います。

災害に対する風化、正常化も大きな問題です。災害が起こり、その時は意識している人も数年たてば忘れてしまい、自分だけは大丈夫と安心している人も多くその事が被害を大きくさせる要因だ

令和元年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

と私は考えます。情報収集が簡単にできるようになった今、一人一人が対策に向け行動すれば被害者も減っていくと思います。

最近、気象環境の変化により一度に台風が何個も発生し、土砂災害の発生率も上がってきています。先日、初めて私の住んでいる地域でも警戒レベル4相当が発令しました。

「まさか」と思いました。そして、災害に対する意識の低さを痛感しました。しかし、これからは土砂災害の事を意識しながら生活をし、自分の身は自分で守り、命を大切にしていきたいと思えます。